

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

<b>学校名</b>	鹿島市立浜小学校
<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	<p>【学力向上】算数科の校内研究で、主体的に学びたくなるように、単元構成を工夫した授業実践の取組の結果、新しい問題に挑戦しようという姿勢、対話活動や書く活動において成果がみられた。</p> <p>【心の教育】キャリア教育は、図書室に「キャリアコーナー」を設置し、児童が将来の夢について考える機会を設けた。あいさつについては、次年度、新たな取組を取り入れていく。</p> <p>【健康・体づくり】スポーツマンスリー期間を設定したり、スポーツチャレンジを引き続き全校での実施を呼びかけたりして、体を動かす機会を確保する。</p> <p>【ふるさと学習】総合的な学習の時間は、新たに内容や人材を開発することができた。さらに、意図的に上学年の地域学習の発表を聞く機会を設定することで浜町の魅力を伝えていく。</p>

<b>2 学校教育目標</b>	<b>ふるさと愛する・光の子の育成</b>
-----------------	-----------------------

<b>3 本年度の重点目標</b>	<p>①自ら学び続ける子供の育成「ひびきあう子供部会」(知)</p> <p>②豊かな心をもつ子供の育成「かがやく子供部会」(徳)</p> <p>③たくましく生きる子供の育成「りっぱな体部会」(体)</p>
-------------------	--

**4 重点取組内容・成果指標** 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目			中間評価		5 最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		学校関係者評価
				達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○算数科を中心に思考力・判断力の向上を目指すための授業改善	○「算数が好き・まあまあ好き」と回答した児童が80%以上。 ○「問題をなんとかして解こうとしている」と回答した児童が80%以上。	・主体的に学習に向かうように、単元構成や対話活動を工夫する。 ・学習習慣や学習環境、朝の特設タイムを充実させる。	B	・「算数が好き・まあまあ好き」と回答した児童が77%だった。どの学年でも算数の学習で、対話活動を取り入れているが、より充実し、児童が楽しいと思える工夫をこれから考え、取り入れていく。 ・「問題をなんとかして解こうとしている」と回答した児童が84%だった。単元構成や導入問題の工夫での学年でも取り組んでいるものと考えられる。	A	・特に算数は基礎が全てですので、先生方の声掛けしていかにか面白く覚えやすい取組をするとか工夫されているお陰だと思えます。子どもたちの好きなゲームの問題に取り入れてある時は集中していました。 ・「算数が好き」と回答した児童の数が多かったことに驚いた。昔で協力して学習に取り組もうとしている姿勢が素晴らしい。先生方のムード作り、ご指導の賜である。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達の悪口を言わずみんな仲良した」と回答した児童95%以上 ○「家族や地域の人にすすんであいさつをしている」と回答した児童93%以上	・年に1回以上、ふれあい道徳や人権週間を計画し、他者を思いやる気持ちを育てる。 ・道徳や学活、日常生活の中で友達のいいところを見つけ、全校放送で紹介したり、やさしさの木に掲示したりする。 ・ほめられた児童には表彰状を用意したり、掲示したりして全校児童の目に見えるようにすることで、子供たちの意欲の向上につなげる。 ・5、9、1月をあいさつ強化月間とし、友達や地域の方に自分から進んであいさつをするように呼びかける。	B	・「友達の悪口を言わずみんな仲良した」と回答した児童は90%だった。やさしさの木やふれあい道徳は計画通りに実施できている。下期は児童同士でほめあう場を増やすために、給食時間にやさしさの木のメッセージなどを紹介する放送を10・12・2月に行う。 ・「家族や地域の人にすすんであいさつをしている」と回答した児童は91%だった。委員会の児童と共にあいさつ強化月間に取り組んだ成果が見られた。今後も継続して取り組んでいく。	A	・「友達の悪口を言わずみんな仲良した」と回答した児童は90%で、目標を達成できた。これはやさしさの木の取り組みに加えて、帰りの会で友達のいいところを紹介するほめほめタイムや行事ごとに友達の良さを伝え合う時間を設けるなど児童同士で認め合う取り組みを実施した成果だと考えられる。今後も日常的に続けていきたい。 ・「家族や地域の人にすすんであいさつをしている」と回答した児童は93%で、目標を達成できた。あいさつ強化週間の取り組みや保護者からのメッセージ等を紹介した成果だと考えられる。また、地域学習で校外に出る機会が増えたことであいさつをする習慣が身についたと思われる。今後も学習を通してあいさつを習慣化していきたい。	・かがやく子供部会 ・人権・間和教育部担当者
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめや不登校等の未然防止への「組織的な対応ができています」と回答した職員95%以上 ○「学級や学校は楽しい」と回答した児童90%以上	・いじめの対応についての研修を行う。 ・「あのねアンケート」を定期的に実施し、悩みや不安を抱える児童との面談を行い、継続的に見守る。 ・長期休暇前後に不登校チェックシートを使って、児童の状態を確認し、対応する。 ・週週、気になる児童についての共通理解の場を設定する。 ・SC、SSWと連携し、児童や保護者との面談を実施し、ケース会議で取組等の確認をする。	A	・「学級や学校は楽しい」と回答した児童は90%だった。「あのねアンケート」記載児童には担任、養護教諭が聞き取りを行い対応し、継続的に見守りを行っている。 ・いじめの対応についての研修は、事例を下にして夏休業中に実施することができた。 ・連帯会と合わせて気になる児童についての共通理解の場を設定し、全職員で共有することができた。 ・不登校児童の対応について、SCやSSWを含めたケース会議を実施し、連携をとることができている。	A	・「学級や学校は楽しい」と回答した児童は93%で中間評価時より3%増加した。先生あのアンケートやいじめアンケートなどの結果をすぐに共有し、迅速に聞き取りや相談など組織的に対応できた成果だと考えられる。 ・連絡会や職員会議の折に児童理解の時間を設けることで、職員全員で児童の支援に取り組んでいる。 ・SCやSSWとの連携も取れている。	・かがやく子供部会 ・生徒指導担当者
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒90%以上	・お昼の放送で「はまほめタイム」を行い、「いいところ見つけ」につながる日々の観察を全職員で協力しながら行う。1年間で全校児童を1回はほめる。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は89%だった。「ほめほめタイム」や「いいところ見つけ」の成果が見られた。今後も継続していく。 ・「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童は86%だった。自己肯定感が低い児童や自信をもてない児童には、テストの目標やスポーツの目標など身近に実現することも立派な夢や目標であることを伝えていく。	B	・将来の夢や目標を8割以上も持っているのは素晴らしいと思う。 ・先生が全児童に平等な声かけをするのは無理だと思えます。しかし92%の児童が認めてもらったと回答していることはすごいです。 ・昭和生まれの私にとっては、嬉しい口語での注意などもさすがに問題になってしまっ。現在の教育現場(職場などもそうだから)での指導は本当に神経を使うし、大変だと思います。	・かがやく子供部会 ・教務主任 ・生徒指導担当者
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」	②「朝ごはんを毎日食べている」と回答した児童99%以上	・週に1回の衛生検査で朝ご飯チェックを行い、朝食を食べることを意識を高める。 ・学期の始め1週間、生活点検を行い、望ましい生活習慣が身につくようにする。	A	・「朝食を毎日食べている」と回答した児童は100%で、目標を上回った。 ・衛生検査と学期始め1週間の生活点検は、年間を通して実施することができた。	A	・「朝食を毎日食べている」と回答した児童は98%であった。また、「規則正しい生活を心がけている」と回答した保護者が98%だった。児童、保護者ともに生活習慣の大切さへの意識が高い。	・りっぱな体部会 ・保健主事
●健康・体づくり	④「安全に関する資質・能力の育成」	○「学校の行き帰りは事故に遭わないように注意している」と回答した児童99%以上 ○地域と連携して、年3回の防災訓練を実施	・関係機関と連携し、交通安全教室や避難訓練を実施する。 ・登下校時のPTAや交通指導員との協力体制を維持、継続して、危険箇所を早期に発見して指導する。 ・自然災害時の下校対応について確認する。	A	・「学校の行き帰りは事故に遭わないように注意している」と回答した児童は98%だった。登下校時のPTA父親部や交通指導員の方の見守りを継続して行ってもらった。 ・2回の避難訓練を計画通りに実施できた。11月に防災訓練を実施見込み。	A	・「学校の行き帰りは事故に遭わないように注意している」と回答した児童は98%だった。登下校時のPTA父親部や交通指導員の方の目見守りや集団下校時に危険箇所の確認を行った成果だと考えられる。 ・地域と連携して、年3回の防災訓練を計画的に実施することができた。	・りっぱな体部会 ・安全教員担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合10%以下 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・時間外在校時間月平均19時間を目標にする。 ・定時退勤日を毎週金曜日に設定する。 ・2学期制を生かし、事務処理の時間を確保できるように計画する。電子掲示板を活用し、話し合いの時間を短縮する。 ・サーバーの整理とICT活用で、効率化を図る。 ・年次休暇を取得しやすくするために、夏季・冬季休業の会議や研修会を効率よく計画し、精選する。	B	・4～9月の時間外在校時間の平均は21.5時間、月45時間を超える職員は1人であり、職員の10%以下は達成できている。9月以降、業務や学校行事等の大きな学校行事があるので、業務を分担し、効率よく進められるようにする。 ・4～9月までの年次休暇は平均8.0日取得している。教務主任が夏季休業中の研修日誌を早めに計画し、職員が年休を取得しやすい環境を作ることができた。冬季休業も年休取得を勧め、取得しやすい環境を作る。	B	・4～12月の時間外在校時間の平均は20.5時間、12月末時点で月平均45時間を超える職員はいない。職員は、業務改善と効率化を意識しながら業務を遂行することができているもの、目標値には達することができなかった。今後も校時の見直しや教育課程の精選などを行い、教材研究や事務処理時間等が短縮できるよう工夫していきたい。 ・1～12月までの年次休暇は平均10.4日取得している。今後も協働体制を整えたり、職員への声かけを行い、年休を取得しやすい環境作り努める。	・管理職
●特別支援教育の充実	○児童の特性に応じた効果的な学習活動の構築	○個別的教育支援計画・指導計画・レベルシートの作成100% ○情報共有を定期的に行う(月1回)。 ○「学校は、特別支援教育について積極的に取り組んでいる」と回答した保護者90%以上	・期間を設けて、支援計画や指導計画、レベルシートの作成をする。特別な支援が必要な児童については、定期的な面談を実施し、保護者との情報を共有し作成する。いじめや不登校については、定期的な面談を実施し、保護者との情報を共有し作成する。 ・年3回の情報共有会議と連絡会後の「気になる子」の時間を設定する。	A	・必要な児童については、支援計画や指導計画を作成し支援にあたることのできた。今年評価をし来年度に引継ぎをしていく。 ・「気になる子」については、連絡会や職員会議などで情報共有をし、全職員で共通意識のもと指導にあたることのできた。 ・「学校は、特別支援教育について積極的に取り組んでいる」と回答した保護者100%である。児童に応じた学びの場で適切な教材を活用したり指導を丁寧に行うことで、落ち着いた生活や学習ができている。	A	・支援が必要な児童が増えて印象です。違うタイプの児童、それぞれに合った対応をお願いします。 ・障害の内容や程度もいろいろあると思うが、きめ細やかな対応に感謝しております。	・特別支援コーディネーター ・教育相談担当

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		学校関係者評価
				達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
◎志と誇りを高める教育	◎地域と連携した教育活動の推進	◎「ふるさと浜が好き」と回答した児童94%以上	・児童が誇りを持ち、魅力ある浜町の発見につながる学習内容の計画及び改善と実施を進める。	A	・「ふるさと浜が好きだ」と回答した児童は94%だった。保護者、職員は100%が肯定的な回答をしている。毎年実施している職員研修や地域との連携の成果だと考えられる。	A	・「ふるさと浜が好きだ」と回答した児童は97%で、中間評価時より3%増加した。2年生の町探検や4年生の酒蔵訪問など地域学習の成果だと考えられる。また光の子集いで学習したことを発表し、各学年に認められたり、地域の方に愛でられていたりしたことによって、落ち着いた生活や学習ができている。	・かがやく子供部会 ・教務主任 ・主事

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	<p>【学力向上】算数科の校内研修で、主体的に伝え合う授業実践の結果、単元構成において単元導入の工夫ができ、対話活動の取組は他教科でも広がりができた。</p> <p>【心の教育】友達の良いところを見つけるなど、他者への思いやりを持てるような取組において成果が出ている。次年度はあいさつや友達に「さん」「くん」をつけて呼ぶことなどに重点をおき、思いやりの心をさらに育てていきたい。</p> <p>【業務改善・教職員の働き方改革の推進】月の時間外在校等時間目標数値が達成できなかった。次年度も職員1人ひとりが意識をもち、業務精選と効率化ができるように行事や教育課程の見直しをすすめていく。</p> <p>【志と誇りを高める教育】地域と連携したふるさと学習はよい成果が出ている。次年度も地域と連携し、魅力ある浜町の発見につながる学習内容の計画及び改善と実施を進める。</p>
-----------------------	--

<b>達成度 (評価)</b>
A : 十分達成できている
B : おおむね達成できている
C : やや不十分である
D : 不十分である